

# 国際原子力機関拠出金

平成30年度予算額 **2.2億円（2.2億円）**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 本事業では、福島第一原発廃炉、原子力発電導入の基盤整備、原子力に関するコミュニケーション・広報活動使途とした国際原子力機関（IAEA）への拠出を通じて、我が国とIAEAが持つ知見、技術、リソースを活用し、原子力に関する公衆とのコミュニケーション・広報活動や新たに原子力発電を導入する国の基盤整備を支援します。また、福島第一原発の廃炉から得られる知見・教訓を国際社会と共有します。
- 具体的には、IAEAによるセミナーやワークショップの開催、専門家の派遣、情報発信等を行います。

### 成果目標

- 本事業を通じて、福島第一原発の着実な廃炉に向けた取組や、原子力発電導入の基盤整備、原子力に関するコミュニケーション・広報活動等を支援します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



## 事業イメージ

- 国際原子力機関（IAEA）には、168カ国が参加しており、各国による分担金及び拠出金によって運営されています。具体的には、原子力エネルギー利用の促進、原子力安全・セキュリティの確保、原子力科学技術開発、保障措置の実施等に関する国際協力を行っています。
- 本拠出金においては、世界における発電用原子力エネルギーの効率的かつ安全な利用の促進という観点から、特にIAEAにおける以下の活動を支援します。

### 1) 福島第一原発の着実な廃炉、知見・教訓の国際社会との共有

- IAEAの国際的な専門家グループを福島第一原発に定期的に派遣し、廃炉の進捗状況に対する評価・助言を実施。
- 原発の廃炉に関する会議等にIAEAの専門家を派遣することで、福島第一原発事故から得られた知見や教訓、廃炉の進捗等を国際社会に共有。

### 2) 原子力利用に関する公衆とのコミュニケーション・広報活動の支援

- 放射性廃棄物の管理や地層処分をはじめ、原子力利用に係る利害関係者とのコミュニケーションに関するIAEAセミナーの開催等を通じて、ベストプラクティスや課題を共有。

### 3) 原子力発電インフラ整備支援

- 原子力発電導入国における原子力計画の策定や制度・組織等の基盤整備を支援するため、IAEAの専門家グループの派遣やワークショップの開催等を実施。

